

薬性について

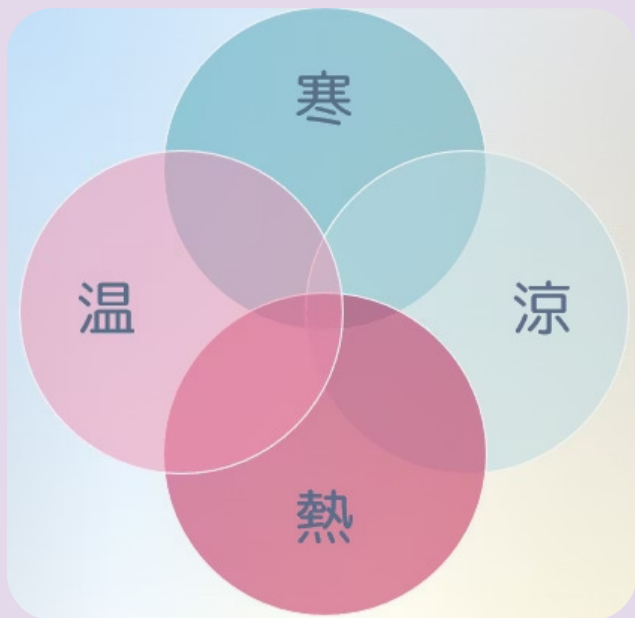
深 考 § 生 薬

「薬に酸、鹹、甘、苦、辛の五味あり
また寒、熱、温、涼の四気あり」

神農本草経



四氣



四氣（四性）

- 寒、熱、温、涼という4つの薬性
- 寒、涼は陰に属し、冷やす性質 薬力は寒＞涼
- 熱、温は陽に属し、温める性質 薬力は熱＞温
- 「寒はこれを熱し、熱は之れを寒す」《素問至真要大論》
- 「寒は熱薬をもって療し、熱は寒薬をもって療す」《神農本草経》
- 大熱、煩渴、大汗、脈洪大など熱盛なときは、石膏、知母、黄連などの寒性薬を用い、寒がる、四肢の冷え、脈が微細など寒盛なときは、附子、乾姜、肉桂などの熱性薬を使用する。

五味 辛、甘、酸

- 「辛は散じ、酸は収め、甘は緩め、苦は堅し、鹹は軟ず」
- 辛：散、行に働き、発汗、行気的作用。
生姜は散寒に、木香は行気、紅花は喀血に働く
- 酸：収、渋に働き、収斂、固渋的作用。
五味子は収斂止汗に、五倍子は渋腸止瀉に、金桜子は渋精止遺に働く
- 甘：補、和、緩に働き、滋補、和中、緩急的作用
人參は補氣に、熟地黄は補血に、甘草は和中に働く

五味 苦、鹹、（淡）

- 苦：泄（降、瀉）、燥、堅に働き、清熱、瀉火、瀉下、燥湿、降逆などの作用。
黄連は清熱瀉火に、大黄は瀉下に、杏仁は降気止咳に、蒼朮は燥湿健脾に、知母黄柏は降下堅陰に作用する。
- 鹹：下・軟に働き、軟堅、散結、瀉下に作用する
芒硝は軟堅瀉下に牡蠣は軟堅消癭痰核に働く
- 追加 六味
- 淡：滲、利に働き、滲利水湿、通利小便に作用する
茯苓、薏苡仁、通草は滲湿利水に働く

五味と五臓

酸は肝（木）に入り、苦は心（火）に入り、甘は脾（土）に入り、辛は肺（金）に入り、鹹は腎（水）に入る。

《素問宣明五氣篇》

昇降浮沈

- 薬物が作用する芳香性を示す
- 昇は上昇、降は下降、浮は上行発散、沈は下行泄利を示す。
- 昇と浮、降と沈は方向性が同じなので、昇浮、沈降と称する。
- 外感風寒の表証には、昇浮薬の桂枝、麻黄などで散寒解表する。
- 腸燥便秘の裏実証には、沈降薬の大黄、芒硝で瀉下する。
- 肝陽上亢の頭痛、めまいには、沈降薬の竜骨、牡蠣、夏枯草、竜胆などで潜陽する。
- 病勢が下陷を呈する時は、沈降薬でなく昇浮薬を使用する。
- 久瀉、脱肛、子宮下垂などには、黄耆、柴胡、升麻などで益気昇陽する。

虚実と補瀉

- 病変には虚実の両面が存在し《内经》に「邪気盛んなればすなわち実、精気脱すればすなわち虚」とあるように「実」とは邪気有余による病変であり、「虚」とは精気（正気）不足による病変である。
- また《内经》には、「虚すればすなわちこれを補い、実すればすなわちこれを瀉する」と、虚実にたいする基本的な治療戦略を述べている。

帰経

- 生薬がどの臓腑や経絡に作用するか示したもの
- 一つの生薬が複数の経絡に帰経することも多い。
- たとえば肺、大腸に帰経する杏仁は平喘止咳と潤腸通便の効能があり、肺、胃に帰経する石膏は、清肺火と清胃火に働く。
- また肺の病気には、肺に帰経する生薬を用いるが、肺を元気にするためには脾に帰経する生薬を使って土生金で肺の機能を高める作戦もとる。

有毒無毒

- 生薬の有毒、無毒はとても重要。
- 有毒の生薬は、性質が強烈であったり副作用があるもので、使用が適切でなければ、中毒を引き起こす。
- 《周礼》に「医師は医の政令を主り、毒薬を集めもって医事に供す」
- 《尚書説命》に「もし薬は瞑眩せざれば、厥疾を療することなし」とあるように古代より毒薬によって疾病を治療していた。
- 《神農本草経》では毒性によって薬を上品、中品、下品に分けて、攻病癒疾の有毒の薬物を下品に、久服補虚の生薬を無毒として、その間を中品として分類している。



神宝本草経

神農本草経は、中国最古の薬物学（本草学）書であり、個々の生薬の薬効について述べている。中国古代の伝説の帝王で農耕・医薬・商業の神「神農」にその名を託した。一年の日数に合わせた365種の薬物を上品(じょうほん、120種)、中品(ちゅうほん、120種)、下品(げほん、125種)と薬効別に分類している。

（上薬、中薬、下薬ともいう）上品は養命薬（生命を養う目的の薬）で、無毒で長期服用が可能。身体を軽くし、元気を益し、不老長寿の作用がある。中品は養性薬（体力を養う目的の薬）で、使い方次第では毒にもなるので注意が必要。病気を予防し、虚弱な身体を強くする。下品は治病薬（治療薬）で、毒性が強いものが多いので長期にわたる服用は避けたほうがよい。病気を治すために用いる。このように「神農本草経」では保健もしくは予防的な薬物が上ランクに、治療薬が下ランクに位置している。『黄帝内经』、『傷寒雑病論』とともに、中国医学における三大古典の1つに数えられる。



中薬の計量単位

- 1斤 – 16両 – 約500g
- 1両 – 30g
- 1銭 – 3g
- 1分 – 0.3g
- 1厘 – 0.03g



生薬の薬能による分類

生薬の薬能別分類

解表薬

辛温解表薬
辛涼解表薬

瀉下薬

攻下薬
潤下薬

化痰止咳平喘薬

温化寒痰薬
清化熱痰薬
止咳平喘薬

安神薬

重鎮安神薬
養心安神薬

清熱薬

清熱瀉火薬
清熱明目薬
清熱涼血薬
清熱燥湿薬
清熱解毒薬
清退虚熱薬

利水滲湿薬

祛風湿薬

行気薬

理血薬

活血化瘀薬
止血薬

消導薬

補益薬

補気薬
助陽薬
養血薬
滋陰薬

収澁薬

平肝息風薬

開竅薬

驱虫薬

祛暑薬

祛暑薬

催吐薬

1. 解表薬

1-1. 辛温解表薬

麻黄

桂枝

紫蘇

荊芥

防風

羌活

細辛

白芷

藁本

辛夷

辛夷

葱白

芫荽

1-2. 辛涼解表薬

薄荷

牛蒡子

桑葉

菊花

蔓荊子

葛根

柴胡

升麻

蝉退

浮萍

西河柳

香豉

2. 清熱藥

2-1. 清熱瀉火藥

石膏

寒水石

知母

山梔子

天花粉

芦根

竹葉

蓮心

茶葉

猪胆汁

西河柳

香豉

2-2. 清熱明目藥

夏枯草

決明子

青相子

密蒙花

木賊

殼精草

夜明砂

熊胆

2-3. 清熱涼血藥

生地黄

牡丹皮

赤芍

紫草

犀角

白頭翁

茅根

2-4. 清熱燥濕藥

黃芩

黃連

黃柏

苦參

白鮮皮

秦皮

馬尾連

2-5. 清熱解毒藥

金銀花

忍冬藤

連翹

野菊花

紫花地丁

蒲公英

大青葉

板藍根

敗醬草

魚腥草

紅藤

射干

馬勃

山豆根

青果

白蘞

漏芦

貫衆

土茯苓

蚤休

蚤休

拳參

馬齒莧

穿心蓮

半枝蓮

鴨跖草

白蘞

白花蛇舌

山茨菇

鴉胆子

2-6. 清虚退熱薬

青蒿

白薇

銀柴胡

地骨皮

胡黄連

十大功劳

葎草



3. 祛暑藥

香薷

藿香

佩蘭

白扁豆

綠豆

西瓜

荷葉



4. 散寒薬

附子

烏頭

肉桂

乾姜

炮姜

高良姜

吳茱萸

小茴香

大茴香

丁香

草果

蜀椒

胡椒

畢撥

畢澄茄

艾葉

草豆蔻

硝石

5. 瀉下薬

5-1. 攻下薬

大黄

芒硝

番瀉葉

芦荟

5-2. 潤下薬

麻子仁

郁李仁

蜂蜜

5-3. 峻下逐水薬

甘遂

大戟

芫花

牽牛子

商陸

續隨子

烏柏根皮

巴豆

6. 利水滲湿薬

茯苓

茯神

猪苓

沢瀉

車前子

防己

薏苡仁

冬瓜皮

赤小豆

椒目

玉米鬚

半边蓮

葫芦

沢漆

木通

通草

灯心草

淡竹葉

地膚子

冬葵子

茵陳

滑石

扁筑

萆解

金錢草

7. 虚風湿薬

独活

秦艽

蒼朮子

木瓜

蒼朮

威靈仙

桑枝

蚕砂

伸筋草

老鶴草

豨薟草

臭梧桐

鑽地風

天仙藤

松節

絡石湯

清風藤

海桐皮

海風藤

五加皮

徐長卿

虎杖

穿山竜

尋骨風

桑寄生

千年健

石南葉

鹿蹄草

虎骨

白花蛇

烏梢蛇

接骨木

8. 行気薬

香附子

木香

烏薬

陳皮

青皮

枳実

枳殻

厚朴

砂仁

白豆蔻

川楝子

薤白

槟榔子

大腹皮

甘松

香櫞

仏手

沈香

檀香

柿蒂

荔枝核

玫瑰花

路路通

9. 理血薬

9-1. 活血化瘀薬

川芎

延胡索

降香

鬱金

姜黄

山稜

我朮

蘇木

毛冬青

丹参

益母草

沢蘭

馬鞭草

牛膝

鷄血藤

王不留行

月季花

絲瓜絡

桃仁

紅花

板紅花

五靈脂

劉寄奴

凌霄花

急性子

鳳仙花

血竭

自然銅

乳香

沒藥

穿山甲

乾漆

水蛭

乾麝虫漆

虻虫

9-2. 止血薬

蒲黄

三七

景天三七

菊葉三七

血余炭

花蕊石

白芨

仙鶴草

藕節

棕櫚

紫珠草

百草霜

黄土

側柏葉

卷柏

大蓟

小蓟

地榆

槐花

槐角

苧麻根

羊蹄根

鉄莧菜

地錦草

薺菜

10. 化痰止咳平喘薬

10-1. 温化寒痰薬

半夏

天南星

白附子

白芥子

皂角

石胡荽

鍾乳石



10-2. 清熱化痰藥

貝母

土貝母

栝楼

竹筴

天竺黄

竹癭

胆南星

冬瓜仁

海浮石

海蛤殼

瓦楞子

海藻

昆布

蒙石

胖大海

木胡蝶

荸薺

猴棗

黄葉子

10-3. 止咳平喘薬

杏仁

桔梗

前胡

白前

百部

紫苑

款冬花

旋覆花

桑白皮

枇杷葉

蘇子

亭歷子

馬兜鈴

青木香

11. 消導薬

山楂子

神麴

莱菔子

麦芽

穀芽

鷄内金

12. 補益薬

12-1. 補気薬

人参

党参

太子参

西洋参

黄耆

白朮

山藥

甘草

大棗

膠飴



12-2. 助陽薬

鹿茸

鹿角

鹿角膠

鹿角霜

海狗腎

紫河車

蛤蚧

冬虫夏草

九香虫

海馬

仙茅

淫羊藿

巴戟天

肉苁蓉

鎖陽

補骨脂

益智仁

胡桃肉

杜仲

續斷

狗脊

骨碎補

菟絲子

沙苑子

蛇床子

胡芦巴

韭子

陽起石

12-3. 養血薬

熟地黄	何首烏	当帰	白芍
阿膠	桑椹	竜眼肉	

12-4. 滋陰薬

沙参	南沙参	明党参	天門冬
麦門冬	玄参	石斛	黄精
百合	玉竹	枸杞子	旱蓮草
女貞子	胡麻仁	黑豆	龜板
龜板膠	べっ甲		

13. 安神薬

13-1. 重鎮安神薬

竜骨

牡蠣

磁石

朱砂

琥珀

珍珠

珍珠母

鉄落

紫石英

白石英

13-2. 養心安神薬

酸棗仁

柏子仁

遠志

夜交藤

合歡皮

小麦

秫米

14. 収洩薬

山茱萸

覆盆子

桑螵蛸

金桜子

五味子

五倍子

烏梅

訶子

肉豆蔻

蓮子

芡実

赤石脂

禹余糧

檮根皮

石榴皮

烏賊骨

麻黄根

浮小麦

糯稻根

銀杏

鷄冠花

15. 平肝息風藥

天麻

釣藤鈎

白蒺藜

代赭石

石決明

羚羊角

玳瑁

貝齒

地竜

白僵蚕

全蝎

蜈蚣

黑豆衣

16. 開竅藥

牛黃

麝香

龍腦

菖蒲

蘇合香

安息香



17. 驅虫藥

使君子

苦楝皮

鶴虱

榧子

雷丸

蕪夷

南瓜子

大蒜



18. 催吐薬

瓜蒂

藜芦

常山

蜀漆

人参芦

胆礬

食塩

19. 催外用薬

鉛丹

蜜陀僧

輕粉

硫黄

雄黄

砒石

水銀

銀朱

銅緑

硼砂

炉甘石

礞砂

明礬

無明異

石灰

樟腦

松香

狼毒

青黛

大楓子

木槿皮

蓖麻子

兒茶

木鼈子

馬錢子

蟾酥

斑猫

壁錢

蝸牛

露蜂房

蛇皮

象皮

20. 安神薬

重鎮安神薬

養心安神薬

まとめ

本稿では、生薬の薬性について東洋医学の基本理論に基づき概説した。四気・五味はもとより、昇降浮沈、虚实補瀉、帰経、有毒無毒といった多面的な視点により、薬物の作用や適応を体系的に捉えることができる。これらの理論は、単なる分類ではなく、臨床における弁証論治と密接に関わる実践的知識である。また東洋の最古の薬学書である『神農本草経』においては薬物の性質を上品、中品、下品の三品に分けている。上品は無毒で生命を養い、長期服用が可能な養生薬、中品は使い方によっては毒にもなり得るが体力増強や病気予防に資する薬、下品は毒性が強く、病を治すために短期間用いる治療薬とされている。薬性に対する理解は、正確な生薬選択と適切な処方構成に直結し、漢方治療の根幹をなすものである。